

リサーチグループの名称			肺高血圧症・肺循環障害研究グループ		
リサーチグループの名称(英語)			Research Group for Pulmonary Hypertension and Pulmonary Circulation Disorder		
名前	所属部局	職名	専門	学位	役割分担
*本間 覚	医学医療系	教授	循環器内科学	医学博士	代表者
*住田孝之	医学医療系	教授	臨床免疫学・膠原病内科学	医学博士	膠原病性肺高血圧症の病態解析
*酒井 俊	医学医療系	講師	循環器内科学	博士(医学)	肺高血圧症の病態解明と分子標的の探索
*宮内 卓	医学医療系	教授	循環器内科学	医学博士	肺高血圧治療に対するエンドセリン拮抗薬の臨床応用
青沼和隆	医学医療系	教授	循環器内科学	博士(医学)	臨床研究シーズの発掘
丸山秀和	医学医療系	講師	循環器内科学	博士(医学)	肺高血圧症のバイオマーカー探索
木村泰三	医学医療系	講師	臨床検査医学	博士(医学)	慢性肺血栓塞栓症の病態解明
松本 功	医学医療系	准教授	臨床免疫学・膠原病内科学	博士(医学)	膠原病性肺高血圧症の治療ストラテジーの開発
近藤裕也	医学医療系	講師	臨床免疫学・膠原病内科学	博士(医学)	膠原病性肺高血圧症における転写因子による制御機構
坪井洋人	医学医療系	講師	臨床免疫学・膠原病内科学	博士(医学)	膠原病性肺高血圧症の免疫機序の解明
高橋 智	医学医療系	教授	発生工学	医学博士	遺伝子改変マウスの作製

キーワード(5つまで)	肺動脈性肺高血圧症	肺循環	難治性免疫疾患	分子標的	肺血管リモデリング
キーワード(英語)	Pulmonary arterial hypertension	Pulmonary circulation	Collagen disease	Molecular targets	Pulmonary vascular remodeling
研究グループHP	URLを記載してください。	<a href="http://www.md.tsukuba.ac.jp/clinical-med/cardiology/">http://www.md.tsukuba.ac.jp/clinical-med/cardiology/</a> , <a href="http://www.md.tsukuba.ac.jp/clinical-med/rheumatology/">http://www.md.tsukuba.ac.jp/clinical-med/rheumatology/</a>			
<b>研究グループ概要(100字程度)</b>					
<p>肺高血圧症は予後不良の難治性疾患であり、その病態解明と治療法が未発達の領域である。当リサーチグループでは肺高血圧症の病因解明・治療法の確立を、動物を用いた基礎研究および患者に即した臨床研究の両面からアプローチする。</p>					
<b>研究グループ概要(英語)</b>					
<p>Pulmonary hypertension (PH) is a disease status of poor prognosis, which is caused by multiple etiologies. It is not clarified why the PH develops and how we treat this syndrome. Our research group will elucidate the molecular mechanisms of the disease, will find molecular targets to be treated, and will establish the treatment strategy by clinical research and by basic research using animals.</p>					
<b>設置の目的及び必要性</b>					
<p>肺高血圧症は多様な要因によって引き起こされる予後不良の難治性疾患であり、その分類には、特発性、結合組織病・先天性心疾患に関連する肺動脈性肺高血圧症および慢性血栓塞栓性肺高血圧症、左心疾患・肺疾患による肺高血圧症に大別される。しかしながら、その病態解明と治療法確立が未発達の領域であり、解決が待たれる分野である。 本グループ設置の目的は、肺高血圧症の病態解明と治療法の確立を、動物を用いた基礎研究および患者に即した臨床研究の両面から行うことである。</p>					
<b>研究計画</b>					
<p>以下の課題に取り組む。 基礎研究 1. 肺高血圧モデルラット・マウスを用いての疾患進展における重要分子の探索。 2. 結合組織病発症に関連する分子の遺伝子操作マウスを用いての肺高血圧症の易発症性の検討。 3. 既存および新規薬物に対する肺高血圧治療薬としてのスクリーニング。 4. 肺血管平滑筋増殖のメカニズムの解明。 臨床研究 5. 肺高血圧症の病態を反映するバイオマーカーを見いだす。 6. 結合組織病に伴う肺動脈性肺高血圧症の臨床的特徴を明らかにする。 7. これまでに有効性が確立している肺高血圧治療薬による治療戦略を確立する。 8. 肺高血圧治療に有用と考えられる薬物の有効性を確立する。</p>					
<b>研究・教育に期待される効果(箇条書き)</b>					
<p>研究に期待される効果 1. 肺高血圧症の分子病態が明らかとなる。 2. 肺高血圧症の進展に結合組織病がいかに関与するかが明らかになる。 3. 肺高血圧症治療戦略が確立し、新たな治療候補薬の有効性が明らかとなる。 4. 肺高血圧症の新たなバイオマーカーが確立する。 教育に期待される効果 5. 大学院生に対する研究テーマを提供できると同時に、肺高血圧症の病態を深く考える機会となる。</p>					